慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	高齢者の再就職に関する問題–「企業特殊的スキル」を中心に–
Sub Title	
Author	百瀬太郎(Momose, Tarou) 千本倖生
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1387号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1387

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1387

学生氏名　百瀬　太郎

主査 千本　倖生
副査 石田　英夫
高木　晴夫

所属　千本　倖生　研究室

高齢者の再就職に関する問題
—「企業特殊的スキル」を中心に—

高齢者の再就職の問題、特に定年退職後の再就職問題は重要な問題でありながら、実際に再就職した人や、受け入れ側の企業が現場でどのような問題に直面しているかについては、まだ充分な研究がなされていない。本論文は、定年退職後もしくはその前後に再就職された18名の方（主としてホワイトカラー事務職）に実施した面接調査に基づき、再就職後どのような点に苦労されたか、またそれらをどのように克服してきたかを、日本的雇用慣行がもたらす弊害と言われている、「企業特殊的スキル」に焦点を当てながら探ろうとするものである。

面接調査の結果にあたっては、過去の企業での「企業特殊的スキル」形成の偏重が「共通スキル」の不足をもたらしている事、また新しい職場で必要な「企業特殊的スキル」（職場内のインフォーマルなコミュニケーションや企業文化・価値観の共有、業界・業種知識の習得等）もまた高齢者にとっては困難である事を仮説として設定し、この仮説にそって面接調査を行なった。

調査の結果、設定した仮説は証明されなかった。「共通スキル」不足の問題を証言した人はごくわずかであり、新たな「企業特殊的スキル」習得についても、その存在自体は証明されたものの、重要度はそれほど高くないという結果が出た。

面接調査から発見されたもっと根本的な問題は、「高齢者が自らが、自分の置かれた新しい環境や周囲から与えられる役割期待を客観視し、それに向かって自己を変革するプロセスを創造する事ができるか否か」であった。すなわち、このような自己変革のプロセスを経験できれば、スキルの問題は比較的容易に克服できるのである。

最後に、どうすればこうした自己変革のプロセスを促進する事ができるかを考え、再就職を目指す高齢者と受け入れ側企業への提言という形でまとめる。